

M&V for mother 直伝!

子どもの結婚式、
親としてかならず押さえておきたい

「NGファッションマナー5つ」

徹底ガイド



LINE友だち登録特典プレゼントのお受取り 誠にありがとうございます！

こんにちは！結婚式に参列するお母様（ブライダルマザー）のためのフォーマルドレス専門店ドレスサロンM&Vです。

当店は2009年から東京の高級住宅街、番町にお住まいの奥様方や、大使館や外務省関係の方、芸能人、女性経営者などのお客様向けに、主に海外から輸入したフォーマルロングドレスをご提供して参りました。そのうちお子様のご結婚式に参列するお母様方からもお問い合わせをいただくようになり、当時ほとんど日本では提供の無かった結婚式に参列する母親向けのフォーマルロングドレスの取り扱いを開始しました。

以来、「すべてのお母様を美しく」を理念に、ドレスの本場ニューヨークから日本の結婚式に相応しい正礼装のフォーマルドレスを厳選仕入し、有名一流ホテルや人気のハウスウェディング、リゾート挙式など、のべ5,000名以上のブライダルマザーの皆様へ提供しております。

この特典では、結婚式のスタイルが多様化し、フォーマルウェアもファッションとしての要素が重要視され、実に様々な（時には真逆の！）解釈、情報が混在している昨今、ブライダルマザーの皆様が実際に迷われている衣裳選びのポイントを、これだけは知っておいて頂きたい「NGファッションマナー」にまとめました。この内容がご衣裳選びの一助になりますと幸いです。

これって実はマナー違反！？結婚式、 親の衣装、

NGファッションマナー5つ

この度はお子様のご結婚が決まり、誠におめでとうございます。結婚式を行わないカップルも増えていますが、結婚式は、お嬢様、ご子息様の新たな門出として大切な場です。また、ご両親様にとっては、お子様との様々な思い出を振り返る特別な1日となります。素晴らしい一日になるよう、これからしっかりと準備に取り掛かってください。

さて、お子様の結婚式の準備を進めるなかで、ご両親が直面する問題の一つに、結婚式当日の自分たちの衣装はどうすればいいのかしら？という問題があります。ここでは、ご両親のご衣裳について、特に気を付けて頂きたいNGファッションマナー5つを解説していきます。お子様のせっかくの晴れ舞台です、ファッションマナーに即したご衣裳をお召になり、素敵な結婚式当時をお迎えください。

NGその①

注意！黒のドレス（ブラックドレス）は喪（お葬式）を連想するので晴れの日衣装として着用する場合には着こなしに注意が必要です！

最近花嫁様に人気の黒のドレス（ブラックドレス）ですが、実は、喪（お葬式）を連想させるので、海外でも日本の宮中でも晴れの日衣装としては正式には相応しくありません。しかしながら、他の情報サイトで、“結婚式に相応しいドレスの色は「ブラック」です”と書いてある記事も散見します。どういう根拠で黒が相応しいと言っているかはわかりかねますが、もし黒いドレスを着たい、またお相手の衣装が黒留袖なので、洋装にする場合でも色を合わせたい、などと思っていらっしゃるのであれば、“あくまでファッション”として黒のドレスを着こなすことをおすすめします。

具体的には、華やかなレースやスパンコールなどの装飾や、光沢のある生地など、喪で着用する為のブラックフォーマルウェアではないドレスを着用し、また、アクセサリーのコーディネートとしては、2連のパールネックレスや、華やかな髪飾りなどをつけて、晴れの日に対応しい装いを演出される事をおすすめしています。

NGその②注意！

ジャケット x 黒のロングスカートは 準礼装、正礼装ではありません

「結婚式でのお母様の衣裳は、ジャケットスタイルが正式です」とデパートのフォーマル売り場の店員さんに言われましたが、本当でしょうか？」という相談をよく頂きます。どのような根拠に基づき正式と言っているのかは不明ですが、推察として、通常フォーマルの場では、男性はジャケット着用となっており、これを間違えて女性にも当てはめているのかと思われます。

フォーマルファッションマナーの歴史を振り返ると、明治維新後、日本政府は欧米に習い政府や皇室での正装は洋装としましたが、庶民の服装はまだまだ着物が一般的であり、既婚女性の場合は黒留袖が結婚式での第一礼装でした。戦後、社会全体が欧米化する中で、着物離れが急速に加速し、そのような状況で日本のアパレルメーカーによって開発されたのが、着物に代わるフォーマル服としてのブラックフォーマルウェアです。そのブラックフォーマルに華やかな柄や色のジャケットを合わせたスタイルはあくまで日本独自に開発された装いであり、国際的なフォーマルファッションルールに照らしても正礼装としての要件を満たしてはいません。残念ながら華やかな色・柄のジャケットであっても、それに黒のロングスカート・ワンピースを合わせるとフォーマルファッションマナー的には、正礼装の留袖より一つ格下の準礼装にあたります。



NGその③

披露宴では、くるぶしが隠れないスカート丈は準礼装にあたります

国際的なフォーマルファッションマナーでは、夜の正礼装として着用するロングドレスの丈は、くるぶしが隠れる事が正式です。お昼の正礼装として着用する、アフタヌンドレスと言われる上下共布のフォーマルスーツやワンピースは、スカート丈が膝丈でもマナー違反ではありません。欧米では、結婚式と披露宴で時間帯が異なるので、結婚式はアフタヌンドレス・披露宴はイブニングドレスと衣装を替えることが一般ですが、日本の場合は、結婚式と披露宴を続けて行うことが一般ですので衣装を着替えません。

この場合、披露宴にふさわしい衣装を着用するのがフォーマルファッションマナーとしては正解ですが、肌の過度な露出はさける方が無難です。また、結婚式のみの場合は通常アフタヌンドレスの着用が正解ですが、日本の場合、黒留袖に匹敵する洋装（フォーマルドレス）となると、黒留袖は脚が隠れているので、脚が見える膝丈のアフタヌンドレスですと、黒留袖よりカジュアルな印象を与えてしまうので、くるぶしが隠れるロング丈の方が、つり合いのとれた衣装になります。



NGその④

お父様の衣装とお母様の衣装の「格」がそろっていません！

国際的なフォーマルファッションマナーでは、カップルの衣装の格を揃えることがマナーです。結婚式のお父様の御衣装は、通常モーニングコート（略してモーニングともいう）が一般的です。このモーニングコートは男性の昼間の正礼装となります。したがって、その隣に並ぶお母様の衣装も必然的に正礼装を着用することがマナーとなります。具体的には、日本の結婚式に相応しい露出を控えたロング丈のフォーマルドレスがお勧めです。

一方、お父様がモーニングコートではなく、ブラックフォーマルスーツなどの準礼装をお召しになる場合は、お母様もそれに合わせて、準礼装のフォーマルウェアとして一般的な、華やかなジャケットに黒のロングスカートと言った装いや、お出かけ用のワンピースをお召しになってもよいでしょう。

NGその⑤

ご両家のご衣裳の格式が あっていません

結婚式の場合、相手のご両親が何を着られるか？ということも考える必要があります。もし、お相手のお母様が黒留袖と衣裳の格としては正礼装の装いなのに、もう一方のお母様がジャケットに黒いワンピースや、色の違うボレロを羽織ったロングドレスなど準礼装の装いですと、ご両家のご衣裳の格が合いません。黒留袖は和装の正礼装ですから、それとバランスの合う洋装は、正礼装のフォーマルドレスとなります。お昼間の結婚式の場合、正礼装はアフタヌーンドレスになるので、スカート丈は、膝丈でもファッションマナー違反ではありませんが、膝丈のフォーマルドレスですと、両家が揃ったとき、あるいはお写真を撮られる際に並ばれたときに、バランスが悪く見えてしまうので、くるぶしが隠れるロング丈のフォーマルドレスを推奨しております。

また、お父様同士の服装も「格」を合わせる必要があります。相手のお父様が正礼装のモーニングコートを着られているのに、こちらのお父様が準礼装のブラックフォーマルスーツですと、これもやはり格式が違いますから、バランスが悪く見えてしまいます。必ずご両家で衣裳の格を合わせましょう。



さて、ここまで、NGフォーマルファッションマナーをご説明してきましたが、如何でしたか？ここで説明してきたことは、国際的なフォーマルファッションマナーに即してご説明してきましたが、それとは異なる独自の解釈をされている方やお店もございます。どの解釈を取り入れるかはお客様次第ですが、悩まれた場合は、ファッションマナーの基本は「場に対する敬意と相手を思いやる真心を衣装で表すこと」です。なので、それを忘れずにご衣裳をお選び頂ければ幸いです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。